



使用した機器・アプリ等 タブレット端末(ipad)、DropTap

高等部 1年 III課程 「自立活動」

〈使い方〉

構音障害や気管切開がある生徒、動作が小さい生徒でも挨拶の言葉を表出できるよう、DropTap に挨拶の音声を録音して活用した。

絵カードコミュニケーションの応用として、挨拶の言葉に対応したアイコンを画面上に提示し、生徒が選択してタップすることで音声再生されるようにした。これにより、簡単な操作で挨拶を表出できる環境を整えた。

ねらい

・挨拶で使われる言葉に親しみ、様々な場面で使われる言葉を聞いたり、模倣したりしながら、自分なりの方法で伝えようとする態度を育てる。

引き出された子供の姿

挨拶のアイコンを活用することで、自発的に友達に働きかけたり、挨拶をしようとしたりする姿が見られるようになった。挨拶の場面でアイコンを提示すると期待するように視線を向け、挨拶ができた際には笑顔が見られた。また、友達の名前を呼んだり、話し掛けたい相手に視線を向けたりするなど、他者を意識した行動が増えた。

これまで教師が身振りや視線から意思を読み取ることが中心であった生徒も、アイコンをタップ(または視線で選択)することで意思を伝えられることを理解し、主体的に表出しようとする姿が多く見られるようになった。さらに、挨拶以外にも興味が広がり、人の名前や場所の名前などの言葉を使って様々な相手と積極的に関わろうとする様子が見られた。その結果、生徒同士のやり取りが増え、教師が介在しなくてもコミュニケーションが成立する場面が広がった。